

全般季節予報支援資料

1か月予報

2024年4月18日

予報期間：4月20日～5月19日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

- ・ 全国的に、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

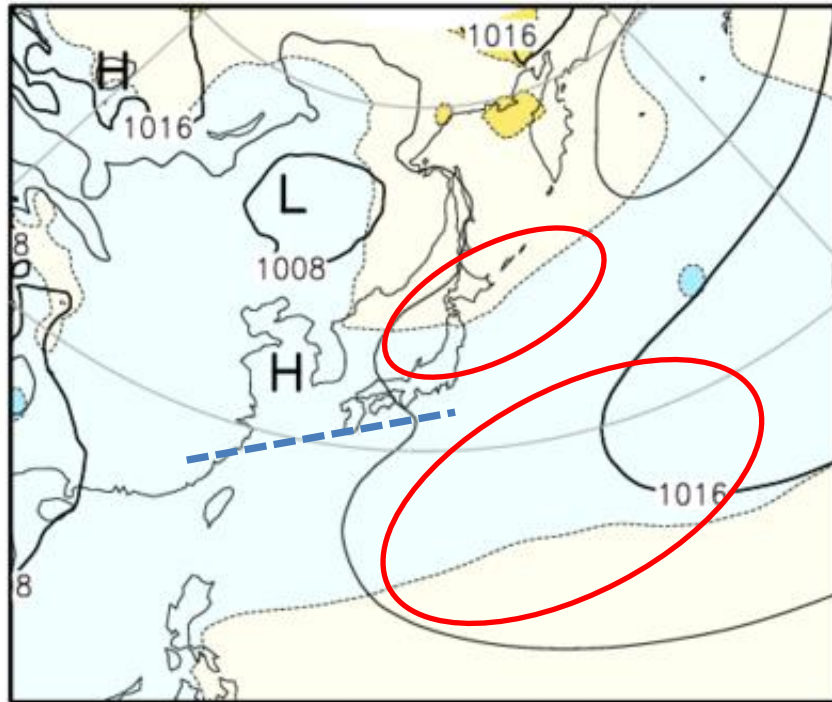
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	40:40:20	
	太平洋側		40:30:30	40:40:20	
東日本	日本海側	10:10:80	30:40:30	40:40:20	
	太平洋側		30:30:40	40:40:20	
西日本	日本海側	10:10:80	30:30:40	40:40:20	
	太平洋側		20:30:50	50:30:20	
沖縄・奄美		10:10:80	20:30:50	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:30:60	10:20:70	20:30:50
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
沖縄・奄美	10:10:80	10:20:70	10:30:60

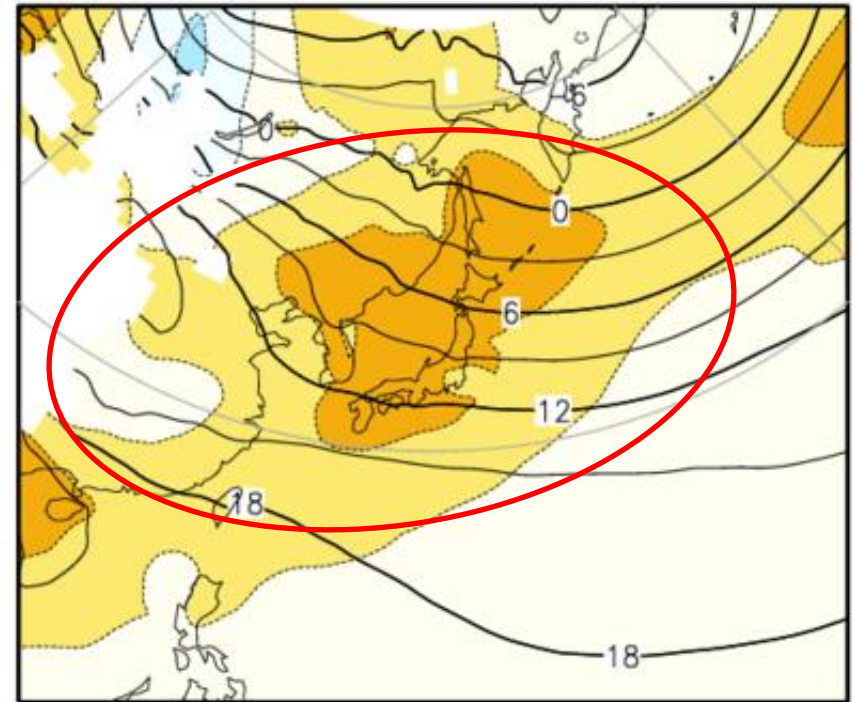
全般予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は全国的に高いでしょう。特に、期間の前半は全国的に気温がかなり高くなる見込みです。
- 湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、北日本では向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。
- 低気圧や前線などの影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は西日本太平洋側と沖縄・奄美で多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、西日本太平洋側で少なく、東日本、西日本日本海側と沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)



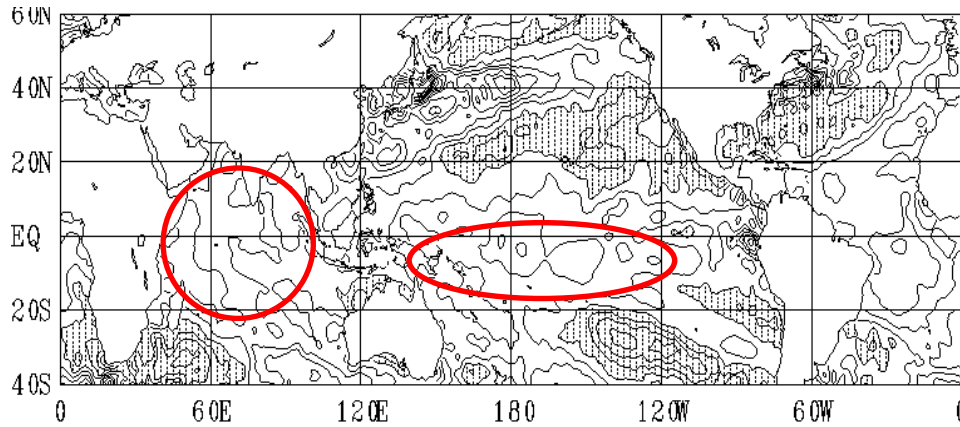
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)は、日本の南には高気圧、日本海には気圧の尾根があり、その間の東シナ海から本州の南岸にかけては気圧の谷となっています。このため、西日本太平洋側を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。

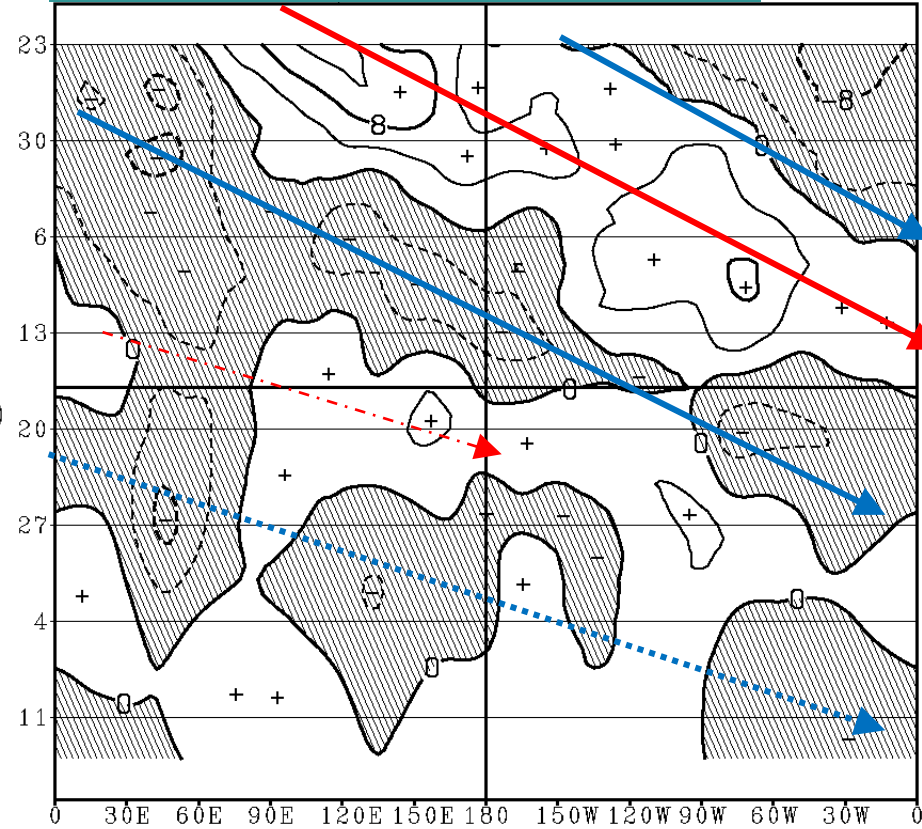
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近では全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差



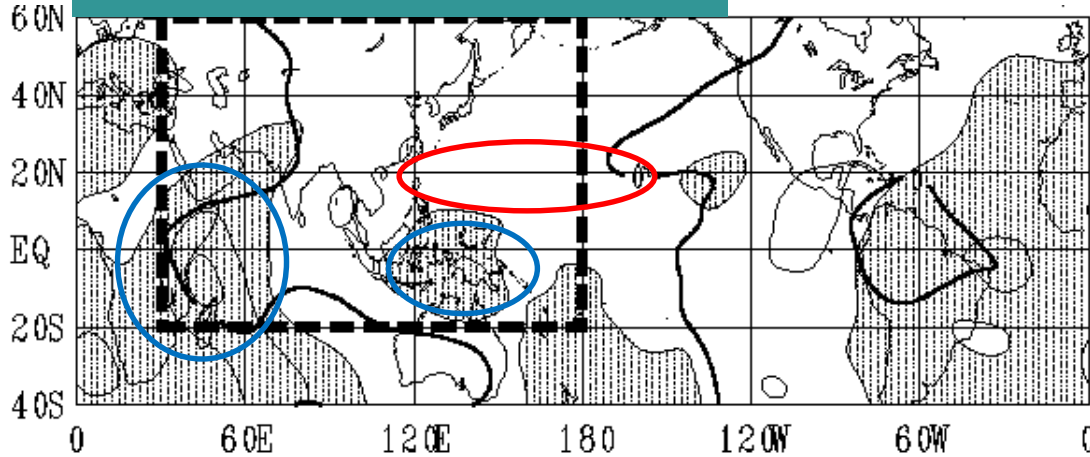
エルニーニョ現象に対応して、太平洋赤道域は中部を中心に正偏差。
インド洋熱帯域は西部を中心に正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



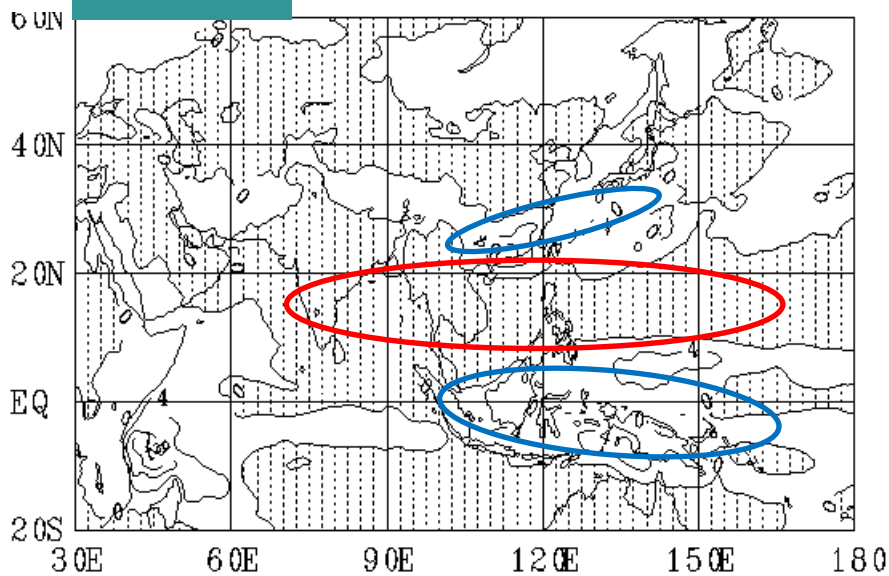
MJOの対流発発位相は期間はじめに大西洋を東進。その後、不明瞭化しつつも、インド洋西部から西部太平洋にかけて東進。

200hPa速度ポテンシャル



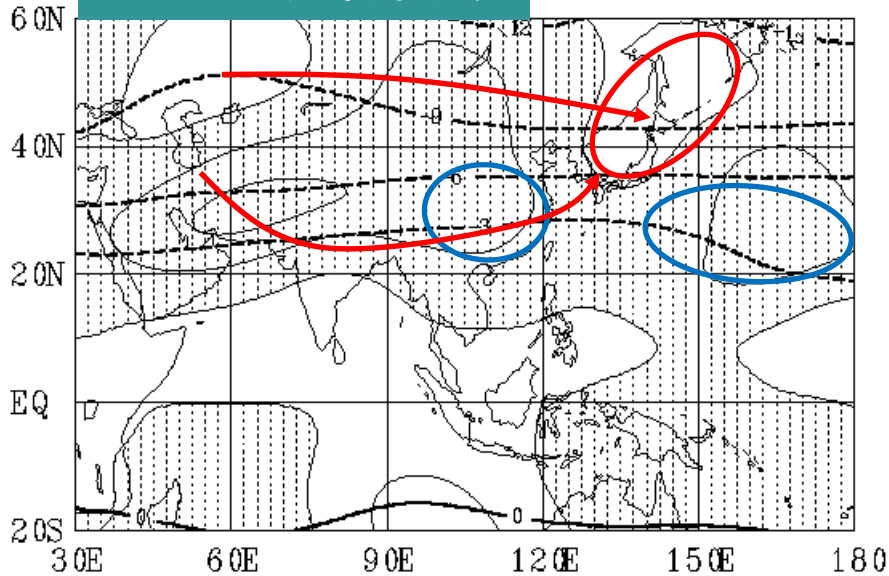
赤道域ではインド洋西部、インドネシア付近で上層発散偏差。一方、フィリピン東方海上は上層収束偏差。

降水量



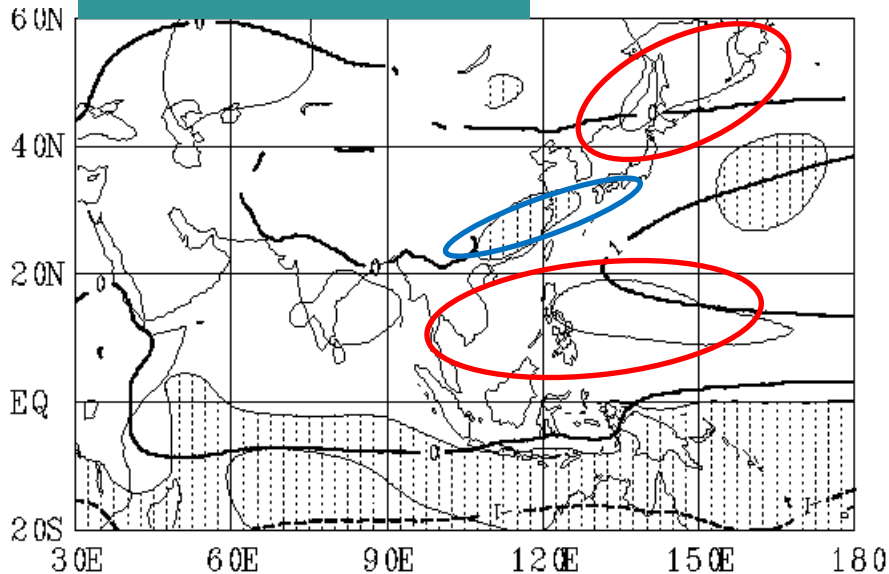
インドネシア付近から西部太平洋赤道域で多雨偏差、ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差。華南から西日本にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



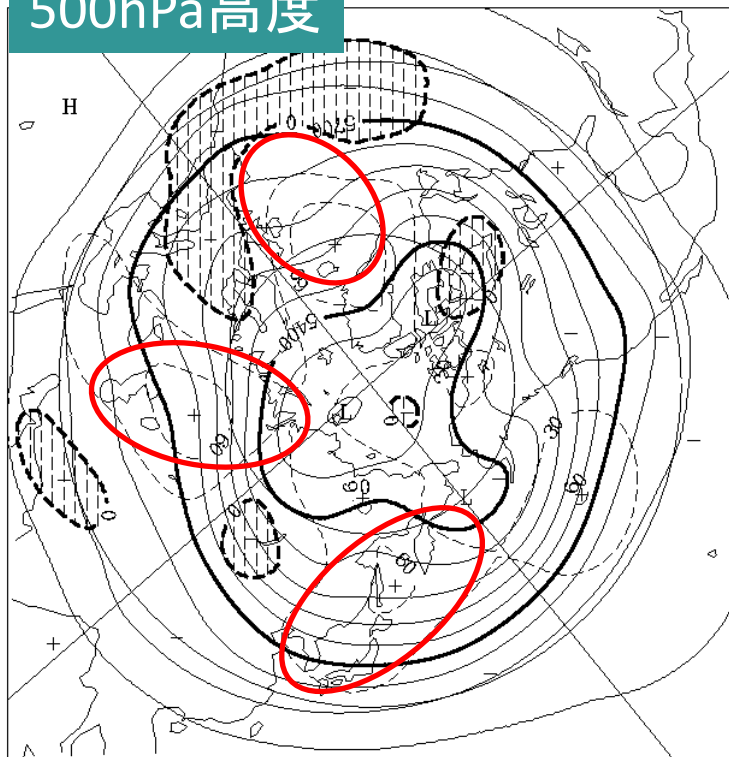
華南からインドシナ半島の北にかけてと日本の南東海上は低気圧性循環偏差。サハリン付近から日本海にかけて高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



熱帯域の対流活動に対応して、南シナ海からフィリピンの東にかけて高気圧性循環偏差。またサハリン付近から日本海にかけて高気圧性循環偏差。前者は鉛直に傾圧構造で熱帯対流活動の影響を示し、後者は等価順圧構造で中高緯度循環の特徴を示す。その間の華南・華中から東シナ海にかけて低気圧性循環偏差で、前線帯に対応。

500hPa高度



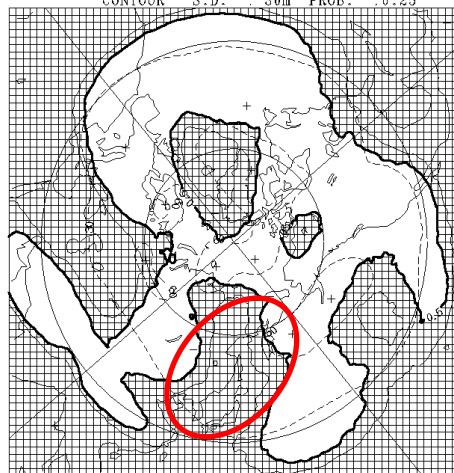
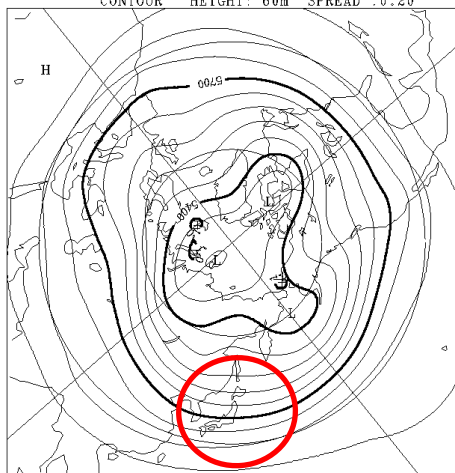
北半球域では、波列状の偏差パターンが卓越。その一環として、日本付近は強い正偏差域に覆われる。日本付近のスプレッドは小さい。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

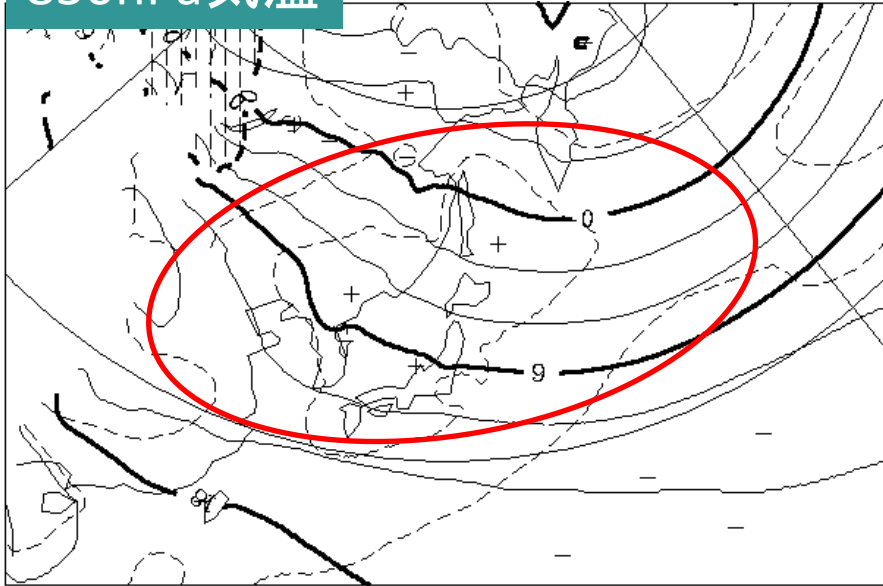
PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

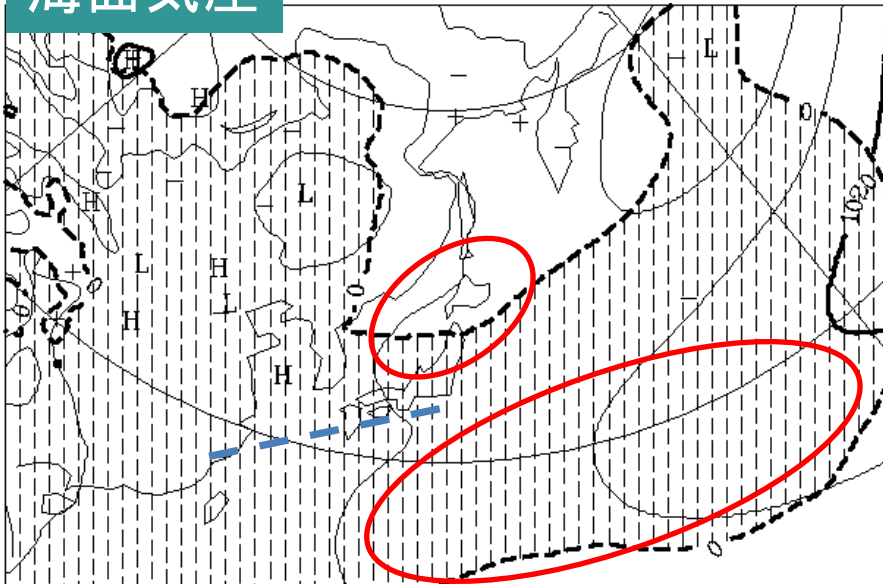


850hPa気温



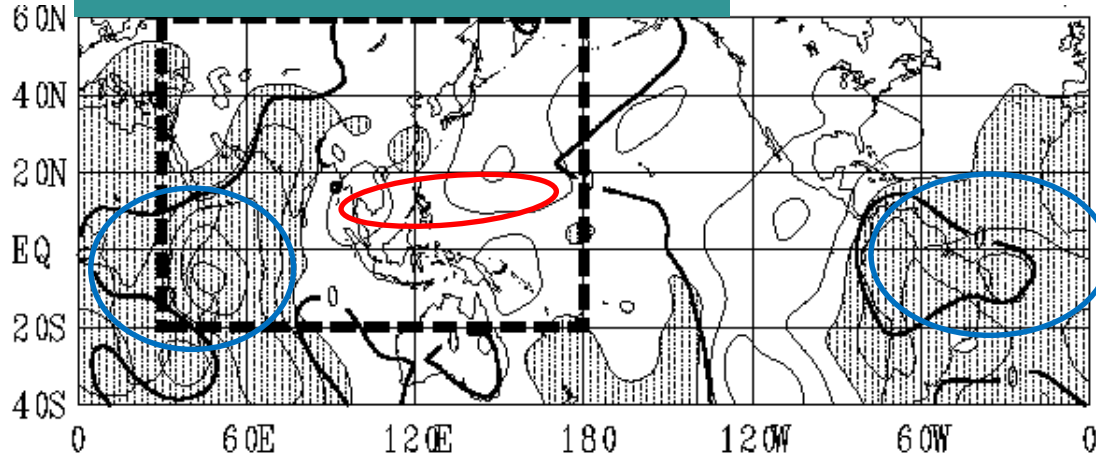
日本付近は東西に広く高温偏差。高温の中心は日本の北で、北・東日本では南北の温度の傾きが小さい。

海面気圧



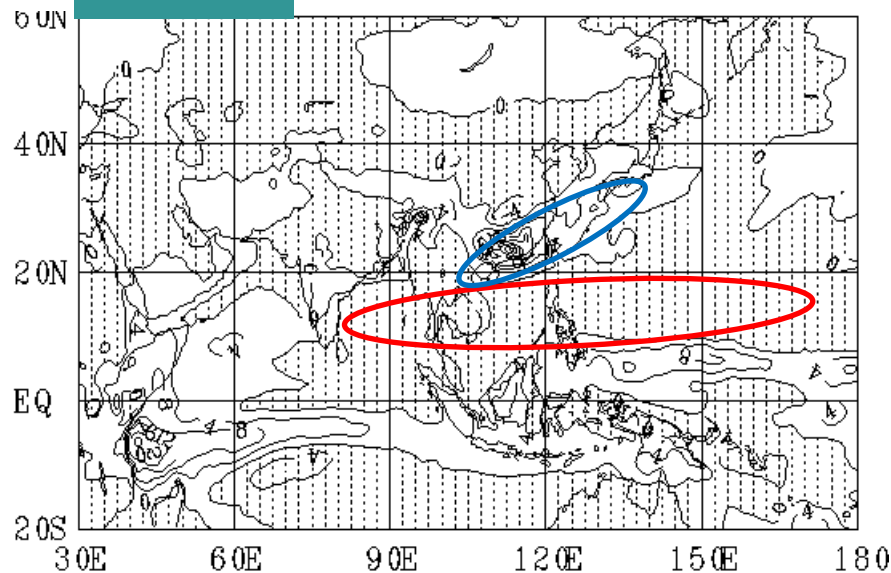
日本の南には高気圧、日本海には気圧の尾根があり、その間の東シナ海から本州の南岸にかけては気圧の谷。このため、西日本太平洋側を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



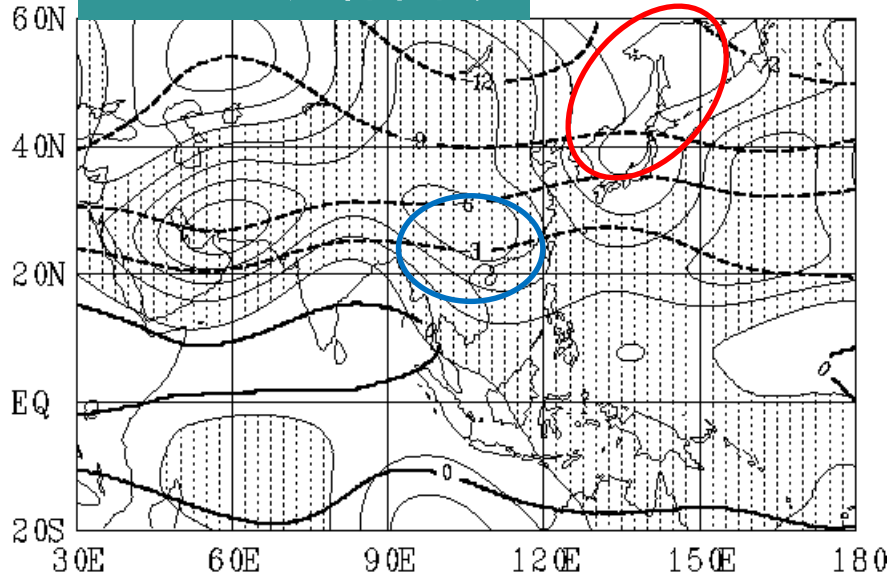
赤道域では、南米からインド洋西部にかけて上層発散偏差、ベンガル湾からフィリピン東方海上にかけては上層収束偏差。

降水量



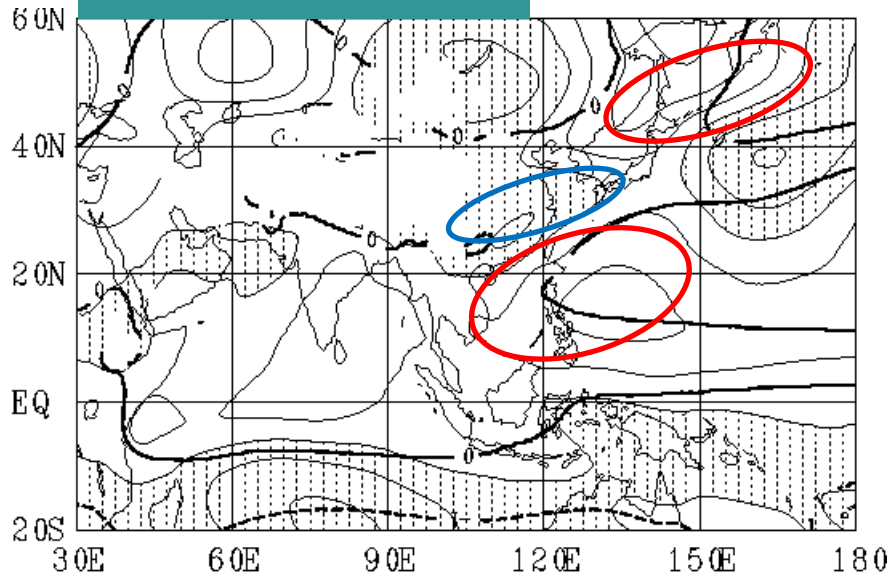
ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差、華南・華中から東日本にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



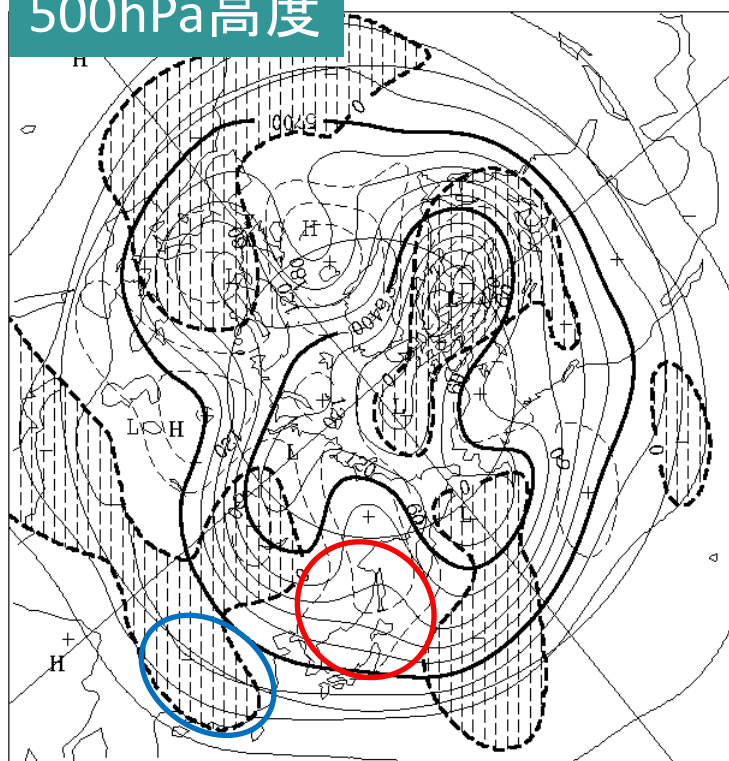
亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流に沿った波列状の偏差パターンが明瞭。それらの一環として、華中からインドシナ半島にかけて低気圧性循環偏差、サハリンから日本海にかけて高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



熱帯の対流活動の影響で、南シナ海からフィリピンの東にかけて高気圧性循環偏差。また、サハリンから北日本にかけて高気圧性循環偏差。その間の華中・華南から西日本にかけて低気圧性循環偏差で、前線帯に対応。

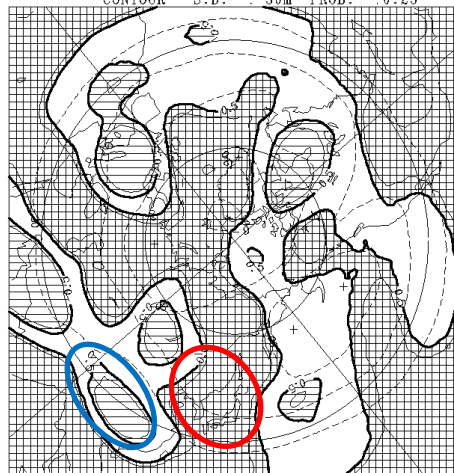
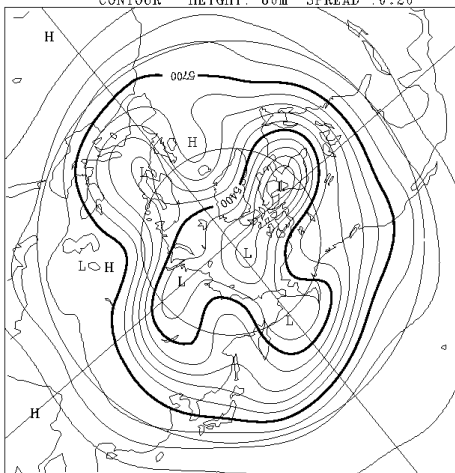
500hPa高度



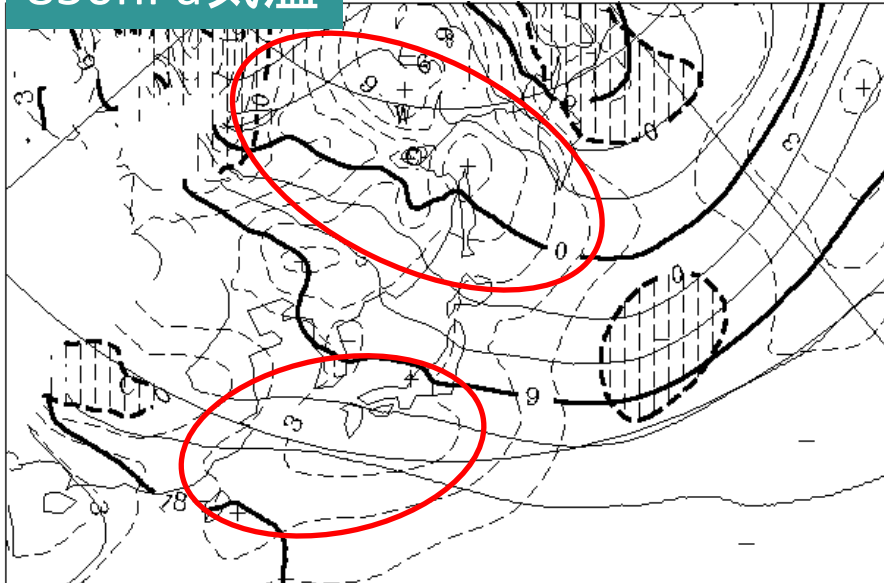
北半球規模で波列状の偏差パターンが明瞭で、その一環として日本付近は強い正偏差域に覆われる。一方、インドシナ半島の北から華南付近にかけてはトラフで強い負偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.
CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

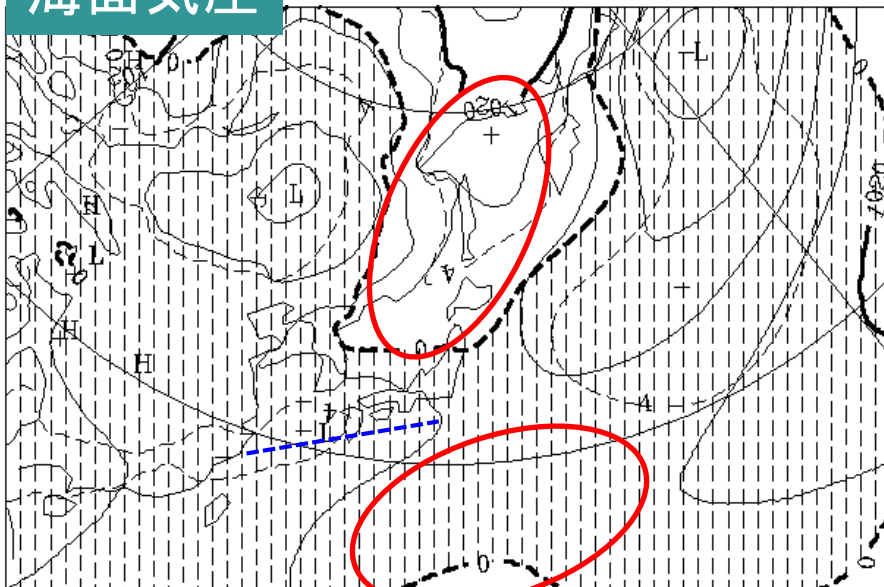


850hPa気温



日本付近は広く、強い正偏差に覆われる。正偏差の中心は北日本と西日本。

海面気圧



日本の南の高気圧、オホーツク海から日本海に高気圧、その間の東シナ海から西日本にかけて気圧の谷。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 東・西日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や低気圧などの影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

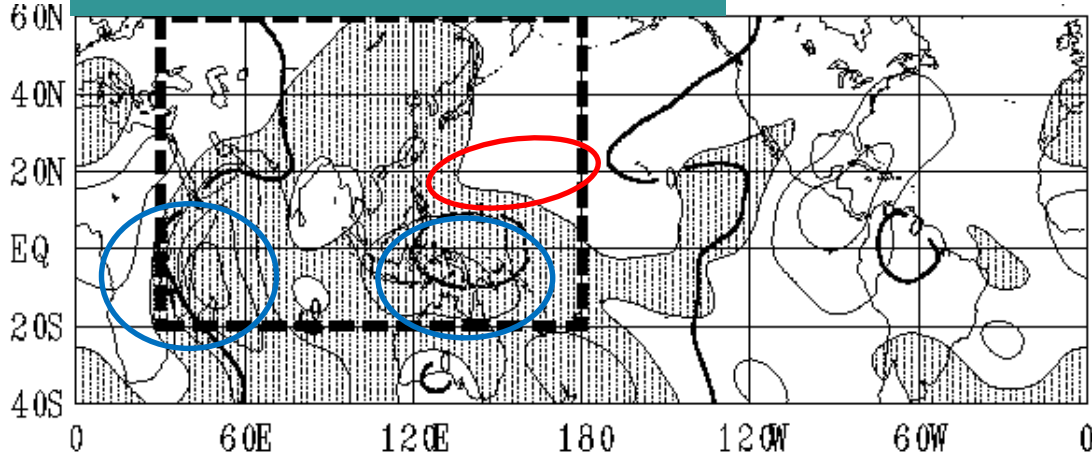
<気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に高温で、かなり高い所もある。

<天候>

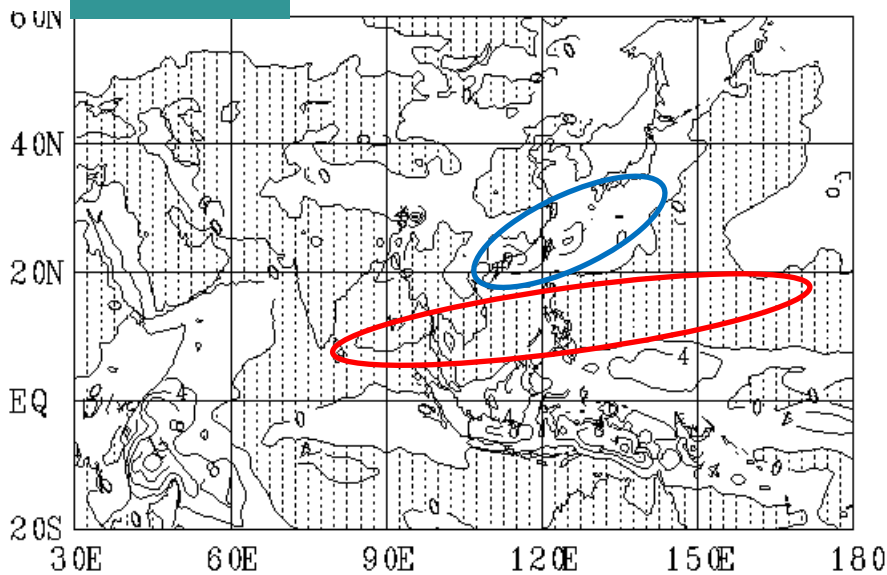
北日本は、湿った空気の影響を受けやすく、寡照傾向だが低気圧の影響が弱くやや少雨。低気圧や前線の影響を受けやすい東日本で並雨寡照傾向、西日本日本海側で多雨傾向寡照、西日本太平洋側で多雨寡照。前線や湿った空気の影響を受けやすい沖縄・奄美で多雨で寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



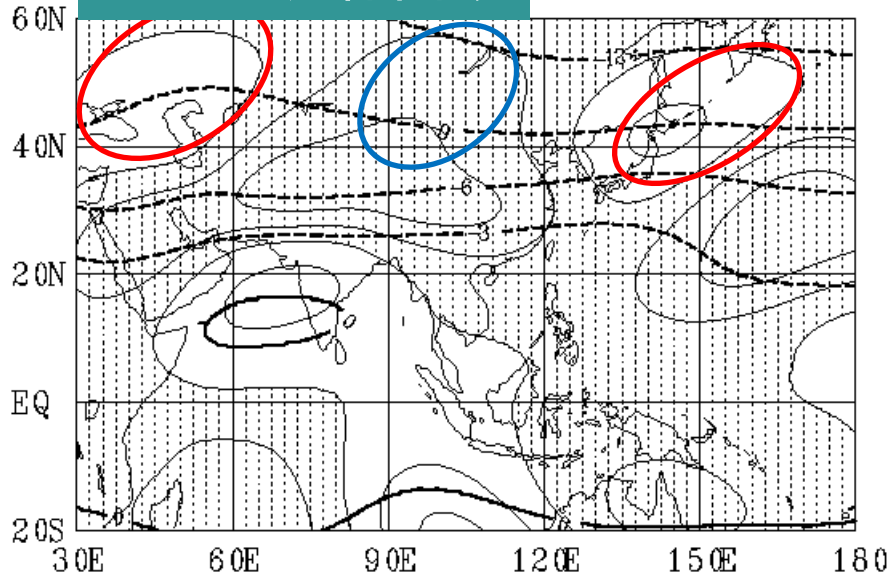
インド洋西部、インドネシア付近で上層発散偏差。フィリピンの東で上層収束偏差。

降水量



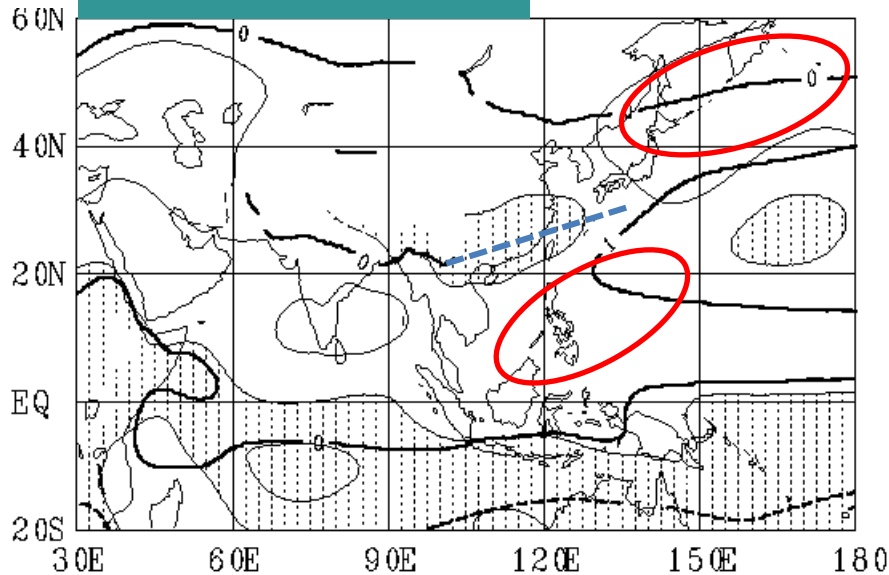
ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差。華南・華中から東日本にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



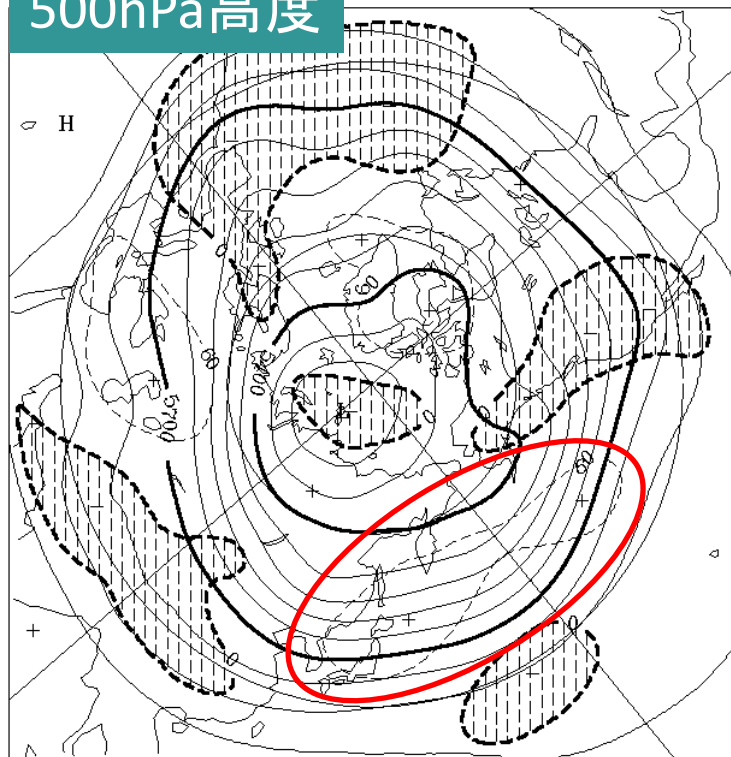
寒帯前線ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、日本海からオホーツク海にかけて高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海からフィリピンの東にかけてと日本海からカムチャツカ半島にかけて高気圧性循環偏差。その間の東シナ海から東日本にかけて前線帯が形成される。

500hPa高度



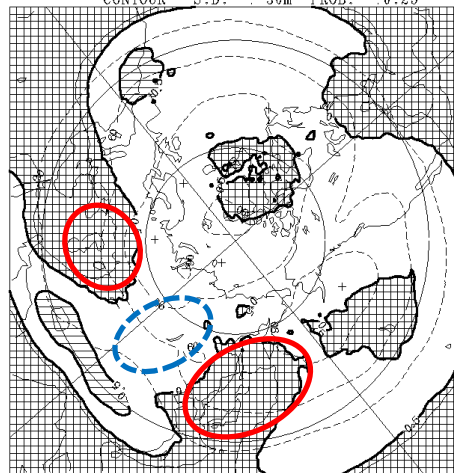
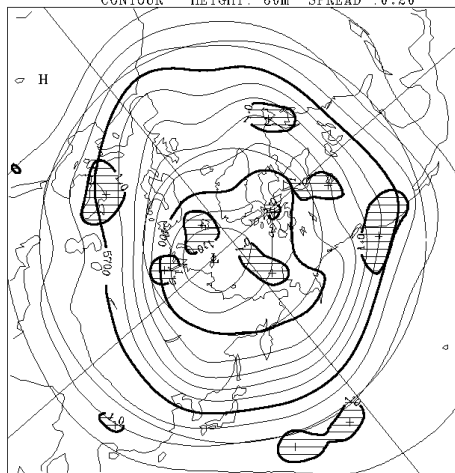
日本付近は日付変更線の東にかけての帯状の強い正偏差域に覆われる。加えて、正の高偏差確率が大きな領域には、寒帯前線ジェット気流に沿った波列状のパターンが見られ、その一環としても、日本付近で正偏差が強い。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

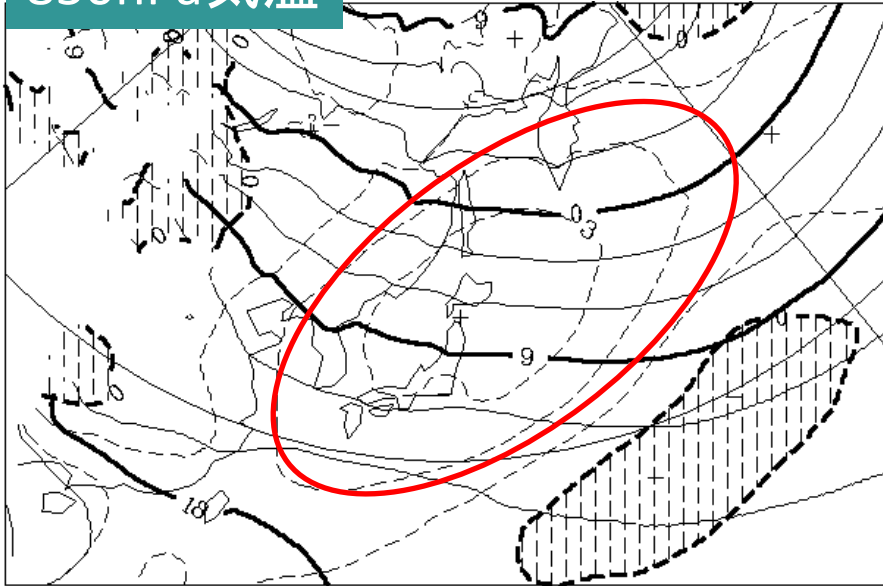
PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

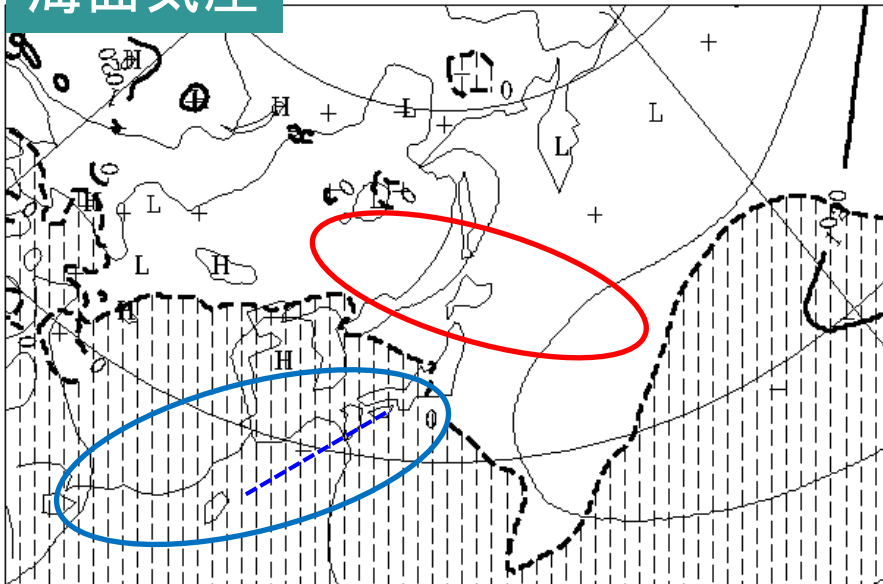


850hPa気温



日本付近は東西に広がる高温偏差。高温偏差の中心は北海道付近。

海面気圧



中国東北区から日本のはるか東にかけて正偏差の一方、華中から東日本にかけて負偏差。本州の南岸には気圧の谷があり、西日本を中心に前線や低気圧の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や低気圧などの影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

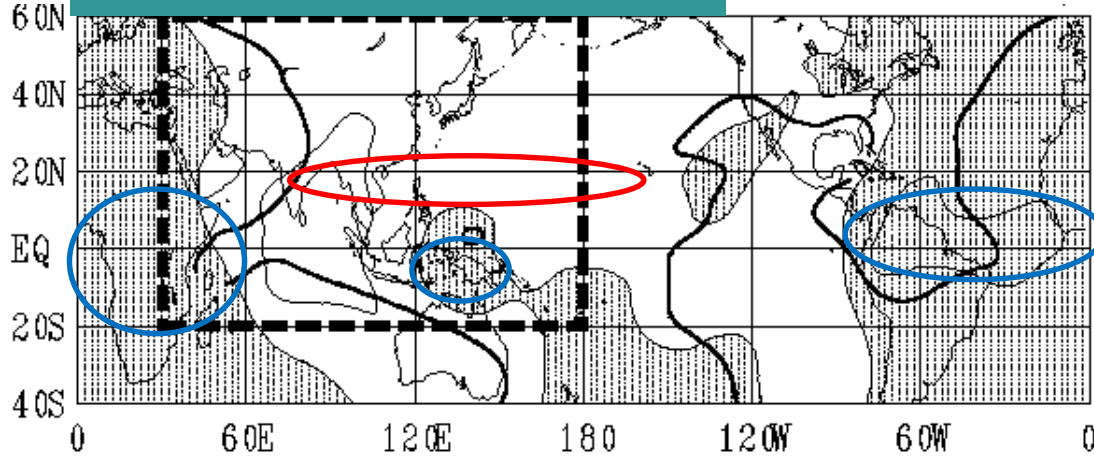
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、かなり高くなる見込み。

<天候>

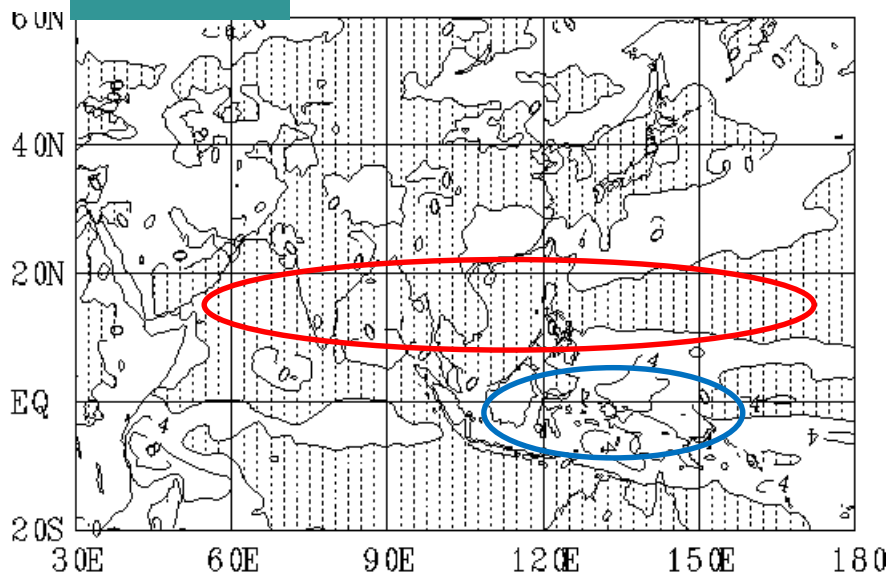
北日本は、湿った空気の影響を受けやすく、やや寡照で並雨。低気圧や前線の影響を受けやすい東日本太平洋側、西日本で多雨寡照傾向。東日本日本海側ではやや寡照で並雨。沖縄・奄美は、前線や湿った空気の影響を受けやすく、多雨寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



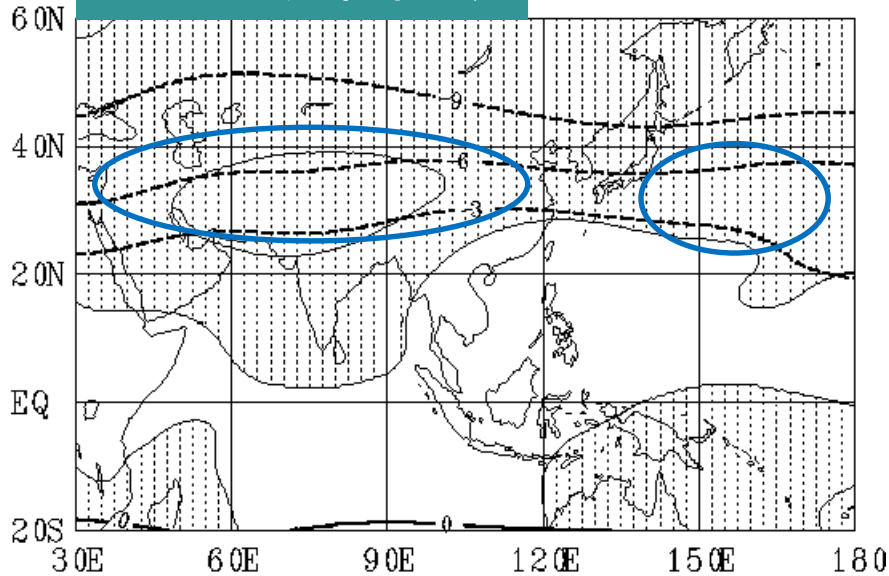
南米からアフリカにかけてと
インドネシア付近で上層発散
偏差、ベンガル湾から日付変
更線の東にかけ上層収束偏
差。

降水量



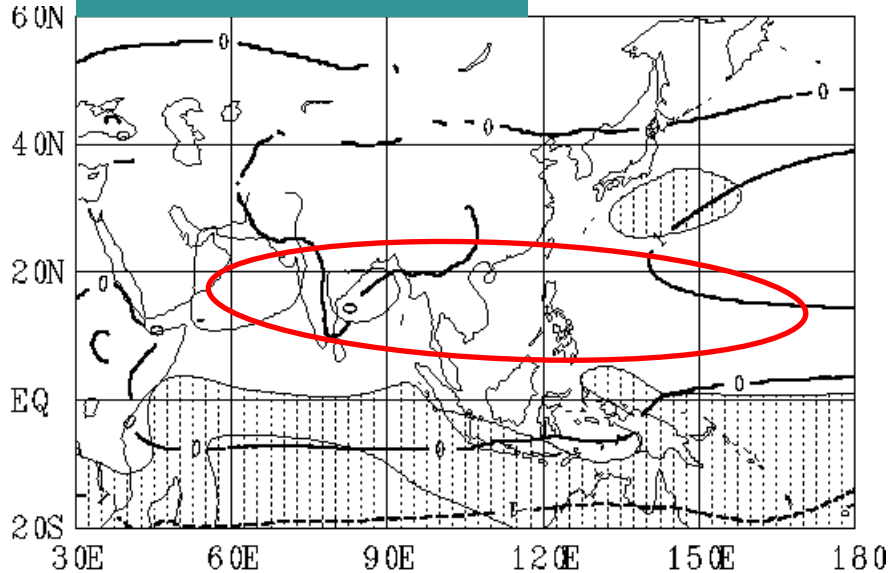
インドネシア付近で多雨偏差。
アラビア海からフィリピンの東
にかけて少雨偏差。日本付近
は少雨偏差だが、偏りは小さい。

200hPa流線関数



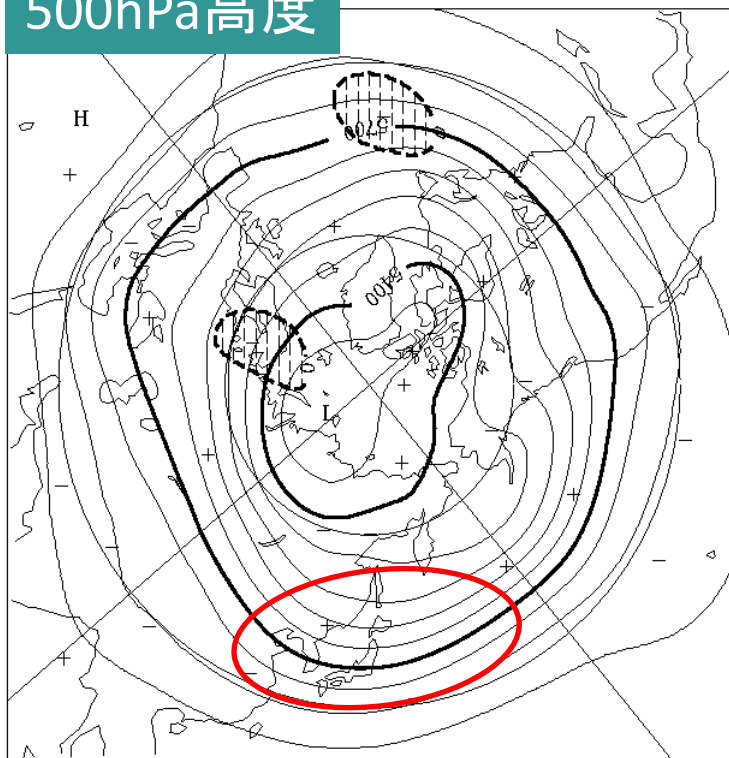
中東から日付変更線にかけて
帯状に低気圧性循環偏差。熱
帯の対流活動が赤道寄りで活
発なことの影響を示唆。チベッ
ト高気圧の成長は遅れると予
測。

850hPa流線関数



アラビア海からフィリピンの東
にかけて高気圧性循環偏差。

500hPa高度



北半球のほぼ全域で正偏差で、日本付近も広く正偏差。沖縄・奄美と西日本の一部は正の高偏差確率が大い領域に覆われる。

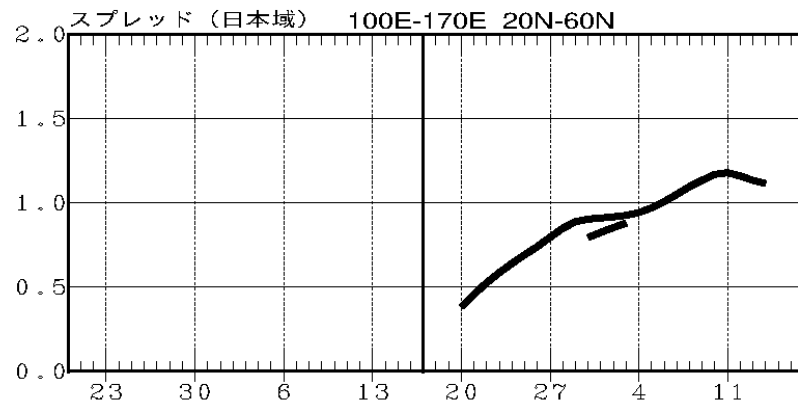
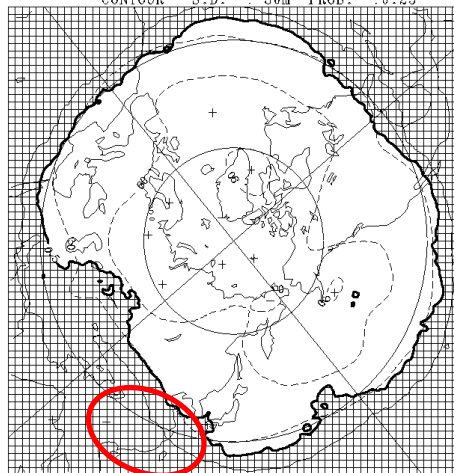
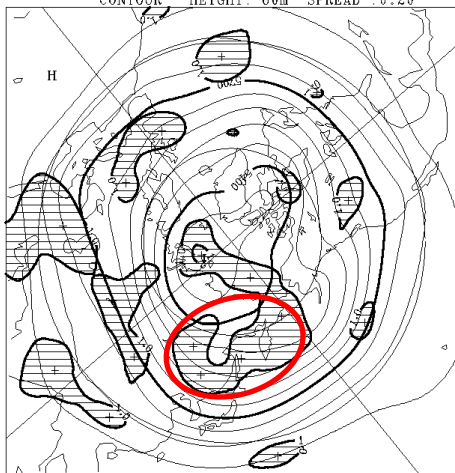
日本付近には北海道にスプレッドが大きい領域がかかるなど、予測の不確実性が大い。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

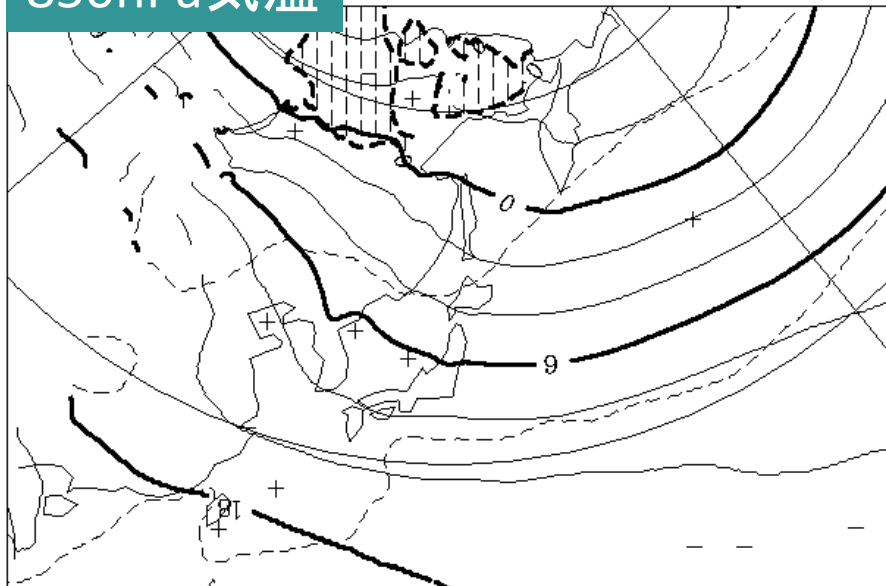
PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

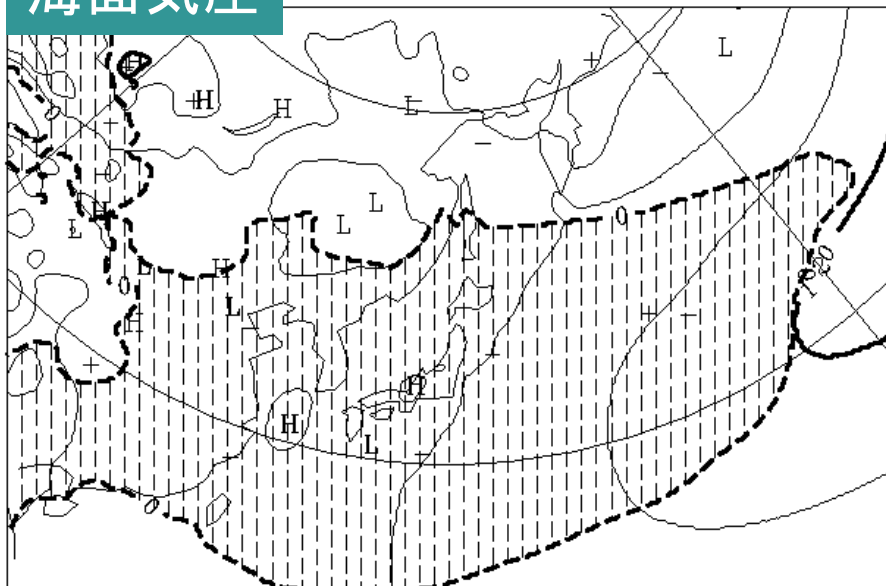


850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。

海面気圧



日本付近では気圧の傾きが小さく、移動性高・低気圧が周期的に通過することを示唆。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側と東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

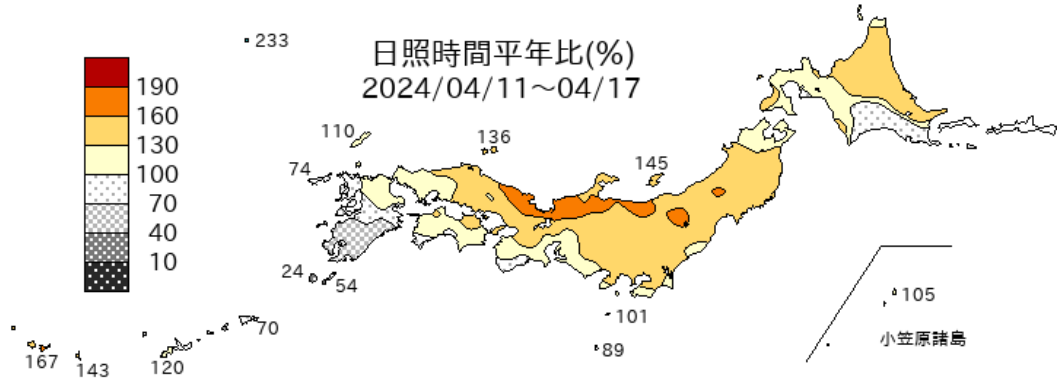
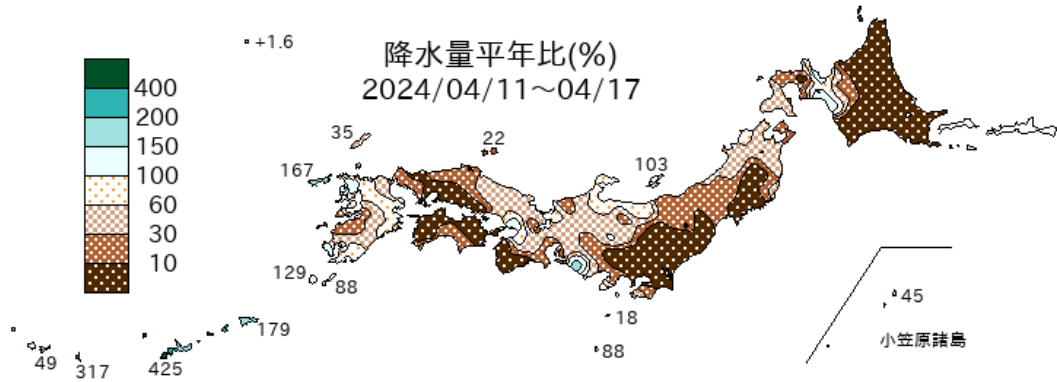
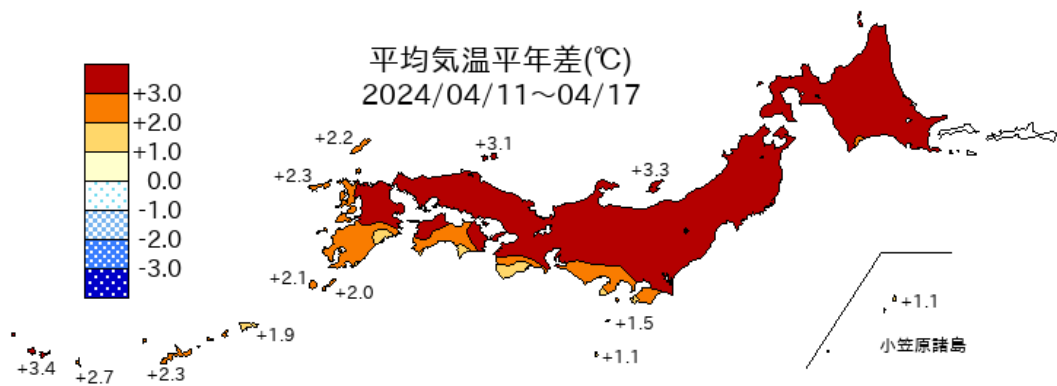
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温。

<天候>

全国で並雨並照を見込む。

最近1週間の天候経過



最近1週間(4月11日~4月17日)は、北・東・西日本では高気圧に覆われて日本海側を中心に晴れの日が多くなりました。一方、沖縄・奄美を中心に、周期的に天気が変わり、低気圧や湿った空気の影響などで、大雨となった所もありました。気温は、暖かい空気に覆われたため全国的に高くなりました。特に、南から暖かい空気が流れ込んだ15日には、北・東日本日本海側で4月としては記録的な高温となった地点がありました。

(2024/4/18更新)
All rights reserved. Copyright(c) Japan Meteorological Agency

(2024/4/18更新)
All rights reserved. Copyright(c) Japan Meteorological Agency